

第55期

中間報告書

平成24年3月1日～平成24年8月31日

Interview

社長インタビュー

MORESCOのモノづくりを世界へ

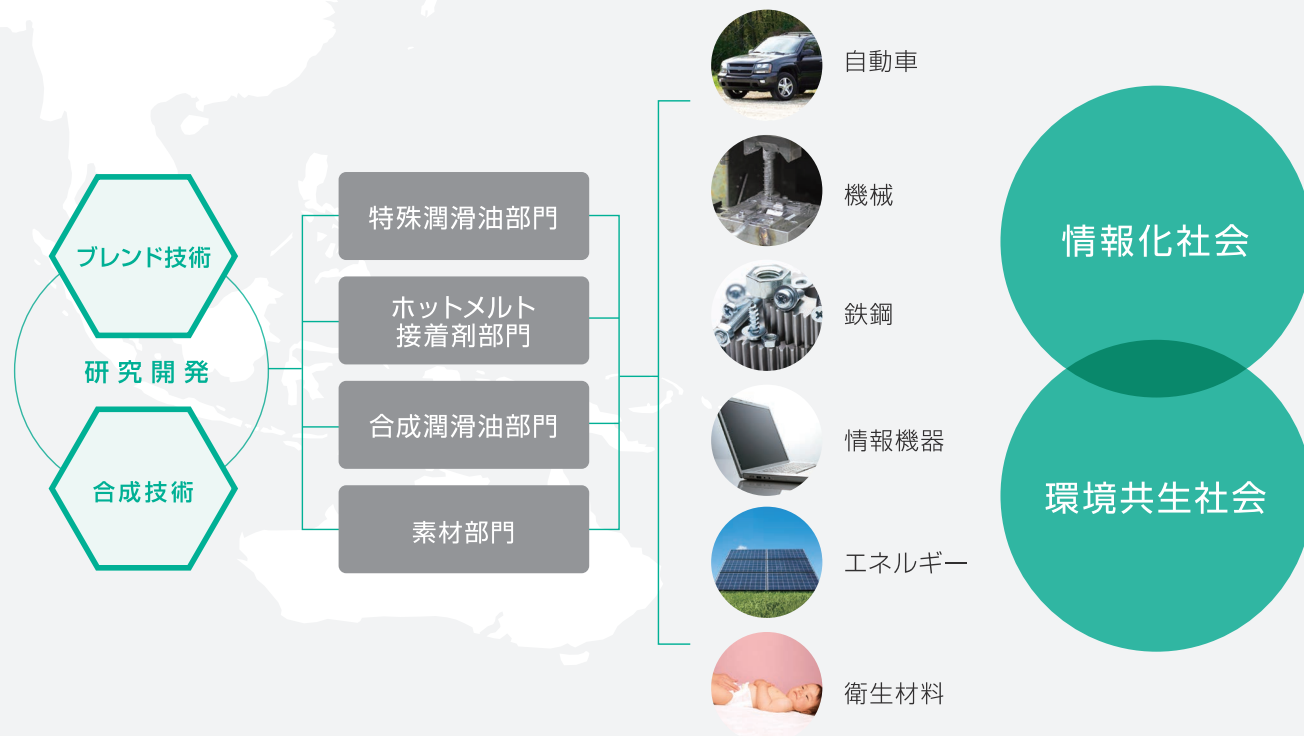


水と油と高分子のスペシャリストとして社会の発展に貢献する

小さくとも世界に きらりと光を放つ企業を目指して

経営理念

- 1 私たちは、「ユーザーのための研究開発」をモットーに、境界領域におけるニーズに応えることによって、いつの時代にも社会に貢献できる企業を目指しています。
- 2 私たちは境界領域のスペシャリストとして、新しい分野へも展開をはかり、新たな機能とサービスを提供していきます。
- 3 私たちは、人間性を尊重する環境づくりと、自由な発想によって、新しい価値を創造することに喜びをわかち合える企業を目指しています。



To Our Shareholders

社長インタビュー

MORESCOのモノづくりを世界でも その実現に向け、着実に行動しています

スピードを上げて海外シフトに取り組む

第55期中間報告にあたって、現在の経営環境についてご説明いたします。全体的な数字のうえでは、ほぼ計画通りに進んでいますが、思惑が良い方に外れたものと、良くない方に外れたものの両面があったというのが率直な感想です。まず良い方から先に述べますと、「ハードディスク表面潤滑剤」がタイの洪水被害からの復興特需もあり3月から8月のトータル出荷量で過去最高の数字が残せました。その中でも、新製品の「モレスコホスファロール D-40H」が最前線の顧客ニーズにマッチするパフォーマンスを有するものとして認められ、確実に伸びており、今後もおおいに期待できます。

一方、自動車産業用の特殊潤滑油は期待値を下回りました。これは国内のカーメーカー、部品メーカーが中国およびASEAN地域への進出

を加速させていることが影響しています。また最近のニュースではブラジルへの進出も加速するなど、ますます海外シフトが顕著になっており、当社もそうした動きに迅速に対応すべく尽力しています。

現在、タイとインドネシアが順調に伸びています。これに中国が加われば国内が厳しい分をカバーできるのですが、このところ成長に陰りが見えていることが気がかりです。しかし、難しい問題もありますが経済圏の大きさを考えるとやはり中国は外せません。テコ入れをする意味でも現地の研究開発に注力します。お客様のニーズに素早く応える研究開発を目指しているという“MORESCOの本気”を示したいと考えています。そのためにも当社の理念を理解し、実践できる現地の優秀な人材の雇用が急務です。こうした試みは数年先とは言わず、ダイナミックに取り組んでいきます。かたやお客様とのネットワークをいかにして構築するかという課題にも直面しています。中国のマーケットが沿岸部から内陸部へと移る中、当社は沿岸部のネットワークが重点となっています。すでに内陸部で活動できる人材を探し、代理店にもアプローチしていますが、もっとスピードを上げて取り組みたいと思います。

代表取締役社長

赤田 民生

世界に希望を見出し、大きく育てる

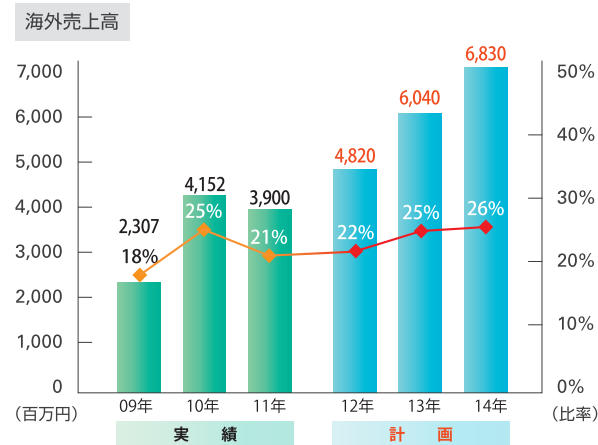
海外子会社の現況と展望について

先述のとおりインドネシアは、市場自体は好調ですが、当社の計画は予定よりも遅れています。工業用潤滑油の生産子会社PT.MORESCO INDONESIAも設備がなかなか税関を通れず、生産ラインが稼動するまでに時間を要しました。プロフィットを出すためには原料も現地や周辺諸国から調達しなければなりません。万一、原料がショートした時のことを考え、バックアップの体制まで整えておく必要があります。こうした事情から厳しい状況が続きました。しかし、今後はダイカスト用油剤を基盤にして、加工で必要となる切削油剤の販売強化にも取り組むなど、次の可能性を見据えています。

また、衛生材料用ホットメルト接着剤に関する合併会社PT.MORESCO MACRO ADHESIVEに関しては生産が間もなく本格スタートを迎えます。子供用紙おむつに使用されるものですが、大手メーカーのテストをクリアし、ビジネスが具体化しています。これは下半期におおいに期待できるトピックスです。またインドネシアだけでなく、ベトナムやタイなどの近隣諸国へ展開するビジョンも見えています。

そして、アメリカも重要なマーケットです。子会社であるMORESCO USA Inc.を活かし、確実にビジネスにつなげていますが、今後は北米のみならず、成長著しいメキシコやブラジルへの展開も視野に入れています。確固たるビジネスが確立されればダイカスト用離型剤を中心に、本格的な生産体制も整えなければいけないと考えています。

このように、MORESCOは常に一步先の世界市場を見据えて経営に取り組んでいます。現在、海外の売上比率が20%強となっていますが、計画では2014年には26%にまで増やしたいと考えています。



次代のMORESCOがそこにある

国内の成長市場に新製品を投入

海外の売上比率を高めると同時に、国内の成長市場にも新製品を投下していきます。有機EL（エレクトロ・ルミネッセンス）デバイスに使われる「有機デバイス用封止材」は、国内の主要メーカーへ採用が決まりつつあります。その他、歯車やベアリングのリテナーなど精密な加工に対応できる、「不思議な水を用いた切削液」は、歯車加工のトップメーカーに採用され、改良を継続しながら実績を積み上げています。

従来の油系のものに比べ、冷却性能が高く、生産性を飛躍的に向上できるのが特長で、今後世界に打って出られる製品に成長すると確信しています。

モノづくりのMORESCOを追求し続ける

世界的に不況が深刻化するなか、当社がどうしてこのような希望を語れるのか。それは当社が「小さくとも世界にきらりと光を放つ」ことをめざしているからです。お客様の要求レベルは年々上がっていますが、それに応え続けることの喜びをトップから新入社員までしっかり理解しています。今後もこの姿勢を貫き続けます。株主の皆さまには、引き続きご支援ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いします。

3

無錫徳松科技有限公司10周年

2001年3月に設立、2002年3月に操業を開始した無錫徳松科技有限公司が、操業開始から10周年を迎えました。外交問題や成長率の低下などが懸念される中国ですが、当社にとっては重要なマーケットであり、無錫徳松科技が重要な拠点であることに変わりはありません。今後も事業環境の変化に対応し、市場ニーズに合った製品開発のスピードアップに努めます。



4

「PT.MORESCO INDONESIA」本格稼働

3月に完成したインドネシアの新工場が、4月から本格稼働を開始しました。製造設備や製品材料を輸入する際、税関検査で想定以上に時間がかかるなど、予定より少し遅れが発生しましたが、現地スタッフの奮闘により、現在は順調に生産を行っています。同工場では工業用潤滑油を製造しており、今後のインドネシア国内需要に対応すべく、生産体制を強化していきます。



2012

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

5

株主総会開催

5月30日、神戸ポートピアホテルにて第54期定時株主総会を開催しました。当日は穏やかな晴天に恵まれ、昨年の出席者数を上回る119名の株主の皆様にご来場いただきました。監査役より監査報告、議長より事業報告と決算書類の説明を行った後、質疑応答を経て、「剰余金処分の件」、「取締役選任」ならびに「監査役選任」の件が承認され、所要時間50分で終了しました。



7

『有機エレクトロニクス 2012-2013』開催

7月13日、本社・研究センターが会場となり、社団法人有機エレクトロニクス材料研究会（JOEM）主催の講演会『JOEM Workshop'12 有機エレクトロニクス 2012-2013』が開催されました。大学、官公庁、民間企業、研究機関等から約60名の研究者が参加し、様々なテーマの研究発表と白熱した質疑応答が行われました。

M O R E S C O
N O W

ナノレベルの超薄膜でハードディスクにさらなる進化を モレスコホスファロール D-40H

ハードディスクの進化を支えるモレスコホスファロール

近年、めざましい勢いで高速化、大容量化が進むハードディスクドライブ。その進化を支えているのが、ハードディスク表面潤滑剤「モレスコホスファロール」です。ハードディスク表面潤滑剤の役割は、データが記録されるディスクの表面に潤滑膜を形成し、データの読み書きをする磁気ヘッドとの接触からデータを守ること。ハードディスクドライブの進化に伴って、より薄く、より緻密な潤滑膜を形成できる表面潤滑剤が求められます。

新しい表面潤滑剤の開発

2007年度から開発を進めてきた「モレスコホスファロール D-40H」は、化合物の骨格となる部分の構造に特長を持たせました。従来品と比べて薄膜化が可能なおうえ、分解しにくいというメリットが見出され、2010年度よりハードディスクメーカーで採用が始まりました。研究開発は試行錯誤の連続。様々なデータと緻密な計算から仮説を立て、実験を繰り返します。開発者としての信念と、お客様の信頼に応え、喜ばれるものをつくりたいという熱い思いがMORESCOの研究開発を支えています。



小さな実験室から世界へ

製品化された潤滑剤は、その思いとともに研究開発者から製造担当者へ引き継がれ、量産化されます。量産化といっても、これらの潤滑剤の製造工程はほとんどすべてが手作業。神戸の小さな実験室で丁寧につくられた潤滑剤は、手のひらにすっぽり収まるほどの小さな瓶に詰められ、ハードディスクメーカーを経て世界中へと送り出されます。現在、ハードディスクのさらなる大容量化に向けてD-40Hの新しいバージョンの研究開発が進められ、着実に採用実績を上げています。ハードディスクドライブの進化と信頼性の向上に貢献するため、MORESCOの挑戦はまだまだ続きます。



●モレスコホスファロール D-40H

セグメント情報

前年同期比、売上高18.2%増、当期純利益は27.0%増

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、震災による復興関連等の国内需要が堅調に推移したことや、エコカー補助金制度等の政府施策により緩やかに回復しましたが、一方で欧州の債務問題を背景とする世界経済の停滞や中国の成長の減速、長期化する円高の影響等、先行き不透明感が強まっております。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、主な需要先である自動車産業の工場稼働率が上昇し、特殊潤滑油

製品の売上が増加したことに加え、自動車電装部品のベアリング軸受用グリース基油やハードディスク表面潤滑剤が好調であったことにより、前年同期を上回る売上高と利益を確保することができました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は9,994百万円(前年同期比18.2%増)となり、経常利益は551百万円(前年同期比18.7%増)、四半期純利益は316百万円(前年同期比27.0%増)となりました。

セグメントの業績の概況

日本

前期比、売上高は18.9%増、利益は29.9%増

● 特殊潤滑油

自動車産業等を中心に工場稼働率が回復し、難燃性作動液、ダイカスト用油剤、切削油剤の売上高が増加しました。さらに、エチレンケミカル(株)の連結子会社化により、売上高は前年同期を大きく上回りました。

● 素材

流動パラフィン化粧品、トイレタリー等の用途が堅調に推移し、前年同期の売上高を上回りました。一方、金属加工油の添加剤として使用される石油スルホネートは海外への輸出が円高の影響を受け減少しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は8,963百万円(前年同期比18.9%増)となりました。
セグメント利益は、420百万円(前年同期比29.9%増)となりました。

● 合成潤滑油

自動車用電装部品のベアリング軸受用グリースの基油として世界的にシェアが高い高温用合成潤滑油は、国内外の自動車生産の順調な伸びに支えられ、堅調に推移しました。また、ハードディスク表面潤滑剤は、高性能新製品の採用が進み、過去最高の売上高を記録しました。

● ホットメルト接着剤

前年度、震災の影響で大きく売上高を伸ばした大人用紙おむつなどの衛生材向けは、引き続き高水準を維持しております。また、新製品の自動車用反応型ホットメルト接着剤の需要が好調に推移しました。

中国

前期比、売上高は1.1%減、利益は36.0%減

中国では、自動車生産台数が前年同期を上回りましたが、ローカル企業の伸び悩みによる影響もあり、ダイカスト用油剤が前年同期の売上高をやや下回りました。一方で難燃性作動液や自動車内装用ホットメルト接着剤等の売上高は堅調に推移しました。

当セグメントの売上高は712百万円(前年同期比1.1%減)となり、原材料価格の上昇等により、セグメント利益は、49百万円(前年同期比36.0%減)となりました。

東南アジア

前期比、売上高は4.1%増、利益は75.2%減

タイでは、洪水の影響が収まり、自動車関連産業の回復により、ダイカスト用油剤、切削油剤、難燃性作動液の売上高が回復しております。また子会社を設立したインドネシアの特殊潤滑油の生産工場も順調に立ち上がりました。

当セグメントの売上高は644百万円(前年同期比4.1%増)となり、原材料価格の上昇と円高の影響、インドネシア子会社の経費増等により、セグメント利益は、6百万円(前年同期比75.2%減)となりました。

日本

北米

前期比、売上高は17.1%増

北米では、自動車生産の回復により、日系自動車関連顧客の需要が好調に推移するとともに、米系顧客でのダイカスト用油剤等の新規ユーザーの獲得等により売上高が増加しました。また高温環境下で使用する合成潤滑油の需要も着実に拡大しました。

当セグメントの売上高は85百万円(前年同期比17.1%増)となり、セグメント損失は、人件費の増加により8百万円(前年同期は8百万円の損失)となりました。

連結財務諸表

四半期連結貸借対照表 (単位:百万円)

科 目	当第2四半期 平成24年8月31日現在	前第2四半期 平成23年8月31日現在
資産の部		
流動資産	9,188	7,433
現金及び預金	1,235	934
受取手形及び売掛金	4,799	3,932
たな卸資産	2,834	2,314
その他	339	252
固定資産	6,432	5,520
有形固定資産	4,897	3,941
無形固定資産	564	533
投資その他の資産	971	1,046
資産合計	15,620	12,953
負債の部		
流動負債	6,470	4,909
支払手形及び買掛金	3,872	2,854
短期借入金	1,420	1,070
その他	1,178	985
固定負債	1,192	1,121
長期借入金	493	355
その他	698	766
負債合計	7,662	6,030
純資産の部		
株主資本	7,379	6,805
資本金	1,526	1,526
資本剰余金	1,386	1,386
利益剰余金	4,467	3,894
自己株式	△0	△0
その他の包括利益累計額	△145	△111
少数株主持分	725	228
純資産合計	7,958	6,922
負債・純資産合計	15,620	12,953

※記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

四半期連結損益計算書 (単位:百万円)

科 目	当第2四半期 自平成24年3月1日 至平成24年8月31日	前第2四半期 自平成23年3月1日 至平成23年8月31日
売上高	9,994	8,456
売上原価	7,177	5,942
売上総利益	2,818	2,514
販売費及び一般管理費	2,338	2,085
営業利益又は営業損失(△)	480	428
営業外収益	101	52
営業外費用	29	16
経常利益	551	464
特別利益	8	6
特別損失	4	12
税金等調整前四半期純利益	555	459
法人税、住民税及び事業税	112	82
法人税等調整額	106	112
少数株主損益調整前四半期純利益	337	266
少数株主利益	21	17
四半期純利益	316	249

※記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科 目	当第2四半期 自平成24年3月1日 至平成24年8月31日	前第2四半期 自平成23年3月1日 至平成23年8月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△124	△142
投資活動によるキャッシュ・フロー	△499	△219
財務活動によるキャッシュ・フロー	342	307
現金及び現金同等物に係る換算差額	8	△2
現金及び現金同等物の増減額	△273	△55
現金及び現金同等物の期首残高	1,295	890
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,023	834

※記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

会社概要・株主情報 (平成24年8月31日現在)

会社概要

商 号 株式会社MORESCO
設 立 1958年10月27日
資 本 金 1,525,928,200円
従 業 員 数 279名

本社および事業所

本社・研究センター 神戸市中央区港島南町5丁目5-3
電話 078-303-9010(代表)
支 店 東京支店／大阪支店
営 業 所 小山営業所／名古屋営業所／九州営業所
工 場 千葉工場／赤穂工場

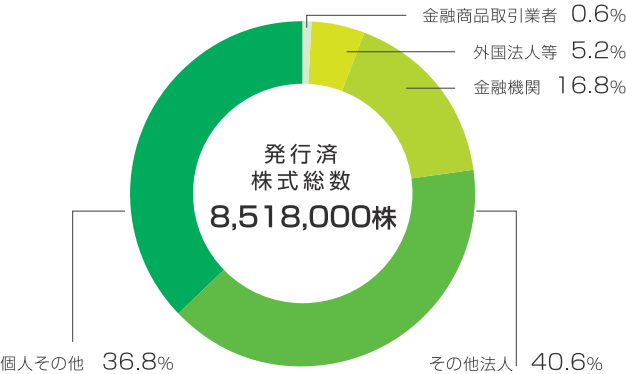
役員構成

代表取締役会長 中 野 正 徳
代表取締役社長 赤 田 民 生
常 務 取 締 役 竹 内 隆
常 務 取 締 役 作 田 真 一
取 締 役 菊 池 習 作
取 締 役 山 地 一
取 締 役 高 梨 雅 廣
取 締 役 両 角 元 寿
取 締 役 米 田 徳 夫
常 勤 監 査 役 本 田 優
監 査 役 富 野 武
監 査 役 小 沢 史 比 古
監 査 役 長 谷 川 克 博

株式の状況

発行可能株式総数 20,000,000株
発行済株式総数 8,518,000株
株 主 数 2,354名

株式所有者別分布状況



大株主

株主名	持株数(千株)	株主比率(%)
松村石油株式会社	1,067.0	12.5
コスモ石油ブリカンツ株式会社	503.0	5.9
日本曹達株式会社	365.0	4.3
MORESCO従業員持株会	342.0	4.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	339.3	4.0
双日株式会社	327.0	3.8
三菱商事株式会社	327.0	3.8
ノムラビービーミニーズ ティーケーワンリミテッド	299.9	3.5
株式会社みずほコーポレート銀行	250.0	2.9
株式会社三菱東京UFJ銀行	250.0	2.9

持株比率は自己株式数(502株)を控除して計算しております。

株主メモ

- 事業年度

3月1日～翌年2月末日

- 期末配当金受領株主確定日

2月末日

- 中間配当金受領株主確定日(中間配当を行う場合)

8月31日

- 定時株主総会

毎年5月

- 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

- 同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
TEL:0120-094-777(通話料無料)

- 上場証券取引所

東京証券取引所

- 公告の方法

電子公告により行う

公告記載URL <http://www.moresco.co.jp/>

(ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に公告いたします。)

【ご注意】

◎株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。

株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

◎特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっており
ますので、特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお三菱UFJ信託銀行全国本支店
でもお取り扱いいたします。

◎未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。